

在宅取組型（小・中学校・幼稚園）



学校名等	瑞浪市立日吉小・中学校・幼稚園
実施日時	年間3回(中学校のテスト期間に合わせて)
会場	各家庭
参加人数	全児童・生徒とその保護者
学習課題(分野)	親子で学ぶ一週間～テレビ・ゲーム・パソコンから離れて～(約束運動)
運営者の願い	年度末に行われる「生活調査」では、依然としてゲーム・テレビ・インターネットの使用時間の長さが課題として挙げられます。そこで、少しでもテレビやゲームなどから遠ざかり、学習意欲を高め、より健康な生活のあり方について考えていただくと共に、学習や読書ができる環境をつくっていただくきっかけになればと思います。実施します。



運営者の願いにもあるように、生活調査の課題をテーマにした実践です。今年度は幼稚園とも連携を図り、同じテーマで実施されました。継続的に実施されていることから定着が図られています。

学習の内容

<実践内容>

○年間3回、中学校の期末テスト期間に合わせて実施されています。
(6月、11月、2月)

○実践目的を明確にするため、実施前に母親委員会から文書を出されています。その中で「ねらい」「実施期間」「取組内容や例」などを記載し、更に委員会が集めた後に通信で紹介することを伝えられています。

<実践用紙より>

【中学3年生】

子⇒勉強

「スマホから離れる時間が増えたり、受験勉強に向けて、自分から離れていけるようにしたいです。」

親⇒事務仕事

「テレビもスマホもないと、話す時間ができて良いと思いました。親子で心がけていくことが大切ですね。」

【小学6年生】

子⇒勉強・読書

「時間があるときに料理などを手伝うことができたし、1日のことを話せたのでよかったです。」

親⇒宿題を見て、最後に確認

「毎日なかなかゆっくりとした時間を過ごせないなので、これからも少しずつ話せる時間を作ろうね。」

【小学1年生】

子⇒妹と遊ぶ・本を読む

「テレビなどみなくてもたのしくすごせました。」

親⇒本を読む・子どもの話を聞く

「学校の本を読んだり、家族とすごす時間がゆっくりとれたりしてたのしかったね！」

【幼稚園】

子⇒絵本を読む

「読み始めたらしそうにしていたので、良かったです。」(保護者代筆)

親⇒テレビを消して、スマホはかまわない

「テレビも良いけど、絵本を読んでたくさんのことを知れるといいね。もっとたくさん絵本を一緒に読もう！」



小・中学校での定着を感じさせることとして、保護者メッセージの質の高さがあります。実践用紙の「保護者から子供へのメッセージ」は、子どもががんばりを「認め励ます」機会や親子の時間の価値を感じる機会にされています。保護者が取組を理解しているからこそ、このようなやりとりができると感じます。だから、ゲームやテレビを我慢するためだけの取組でなく、「家族のコミュニケーションを深める機会」にされている様子が、実践用紙からわかります。

※子どもだけでなく保護者にも「取組内容」を約束し、実践カードに記入してもらいます。これが、子どもにやらせるだけの取組にならない秘訣ですね! 「親子で学ぶ一週間」のタイトル通りの実践になっています。